

2014年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	情報学科						
科目名	教育心理学						
科目区分	教職科目	単位数	2	開講時期	1年次後期		
必修・選択の別	選択(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒 Mio KOBAYASHI						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育場面における教育心理学の必要性を説明できる。 ・発達理論および主要な発達用語について説明できる。 ・学習理論および主要な教授学習法について説明できる。 ・パーソナリティ理論および人格の測定法について説明できる。 ・教育相談の方法を理解し、代表的な心理療法について説明できる。 ・学級集団の特性および集団測定法について説明できる。 						
日程と内容	<p>9/15 導入～授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示、教育心理に含まれる領域とその意義～</p> <p>9/22 心理学の歴史と教育心理学の成立、教育心理学の方法</p> <p>9/29 発達～発達の捉え方、遺伝か環境か論争～</p> <p>10/6 発達～発達の様相、発達段階の諸説①～</p> <p>10/20 発達～発達の様相、発達段階の諸説②～</p> <p>10/27 発達～愛着理論、発達に関連するキーワード～</p> <p>11/10 学習～学習理論、記憶のメカニズム～</p> <p>11/17 学習～動機づけ、教授学習法～</p> <p>11/24 パーソナリティ～パーソナリティの定義、パーソナリティ理論～</p> <p>12/1 パーソナリティ～心理検査によるパーソナリティの測定～</p> <p>12/8 知能～知能の捉え方、知能検査～</p> <p>12/15 不適応行動～欲求不満、葛藤、適応機制、問題行動～</p> <p>12/22 心理療法～カウンセリングの基本的技法、心理療法理論～</p> <p>12/23 教育評価～教育評価の意義、教育評価の方法～</p> <p>1/19 学級集団～集団の特性、集団の発達プロセス、集団測定法～</p> <p>(1/26 最終試験)</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	心理学を初めて学習する者がほとんどであるため、昨年度よりも内容を絞ったり途中で確認テストを行なうなどの配慮を増加させた。最終試験での合格率は77%であったが、約3割の受講生は80点以上の到達度となっているなど、到達目標を達成できた学生と不十分な学生とに二極化している傾向が今年度も見られたようである。						
反省点	最終授業アンケートの自由記述の感想にもあったように、教員採用試験科目における教育心理学を全15回で網羅的に扱い指定テキスト1冊のほぼ全てが試験範囲となる授業であるため、どうしても内容が幅広くなり、試験範囲の広さへの不満が見られた。授業内容に関しては3以上の肯定的な評価が多かったが、学生自身の態度や予習・復習の評価において低い箇所が見られたため、より能動的・積極的な学習を求めたい。						
来年度の計画	基本的な到達目標および授業内容は同一とし、小テスト等により最終試験範囲の広さを軽減しながらも、途中の評価を確実にできるようにしたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業内容や授業方法に対する肯定的な評価が高く(図や絵を用いた講義がわかりやすい、など)現在の授業スタイルを維持していきたい。自由記述にいくつか見られた内容の幅広さが課題の1つであるため、近年の教員採用試験の出題傾向を参照にして授業に反映させていきたい。						
履修登録者数	60名	定期試験 受験者数	57名	合格者数	44名	合格率	77%